



## 可能な範囲でできることを

副校長 廣野 寛子

例年よりも暖かい春が早く来て、「桜は4月」という感覚が変わってきたような気がします。

1学期が始まって一ヶ月。子供たちは新しい教室での新しい生活に少しずつ慣れてきました。4月になって一つ学年が上がり新しいスタートを切るにあたって、子供たちは「今年はこんなことをがんばりたい。」とめあてを決めることが多いのですが、それを聞くと、「今よりもっと素敵に自分になりたい。」と素直に思うことのできる素晴らしさを感じます。子供の一年は本当に大きいです。一年生が先日「はじめてかいたなまえ」を大きな文字で丁寧に書きました。一年後にもう一度同じ大きさの紙に名前を書くのですが、今どんなに上手な文字を書く子でも今から一年間努力した自分にはかないません。また、今年度は感染防止のためにだっこやおんぶは無しで六年生が一年生の登校のお世話をしたのですが、泣いている子を優しくなだめたり雨の日のレインコートをついてあげたり……。たった5年間でこんなに成長するのかと驚くばかりでした。

昨年度は音楽で歌唱の学習は控えてきました。学校ではいつも子供たちの楽しそうな歓声や歌声が聞こえてくるのですが、静かな一年を過ごしました。今年度は、距離を取りマスクを着用し室内の換気をしながら歌唱の学習を始めました。「校歌をおぼえたよ」と一年生の女の子が嬉しそうに教えてくれました。緊急事態宣言が発出され一旦対応を元に戻しましたが、区や都のガイドラインに沿って感染に注意しながら、子供たちの大切な一年間を作るお手伝いをしていきたいと思っています。



始業式後 「今日からよろしくね。」



避難訓練 上級生がいいお手本になりました。



黄色の帽子にランドセルカバー。  
車に気を付けて帰ります。